

# 「RARECAREnet list に 基づく希少がん・一般がん 罹患率の都道府県比較」

Hiromi Sugiyama

杉山裕美

(公益財団法人) 放射線影響研究所



最優秀  
口演賞

日本がん登録協議会第31回学術集会で、最優秀口演賞を受賞いたしました。このような賞を授与していただき、学術集会関係者の皆様、学術委員会の先生方に感謝申し上げます。RARECAREnet list は、欧州連合（EU）における希少がん情報ネットワークプロジェクトが提供している list で、国際疾病分類第3版の局在と形態のコードを用いて、一般がんも希少がんも、すべてのがんを病理学的にそして臨床実態を考慮して分類する list です。本研究では、2016～2018年に浸潤がんと診断され全国がん登録に登録された約300万件の症例を、RARECAREnet list に基づき68種類のTier-1のがん種に分類し、年齢調整罹患率を都道府県別に比較しました。一般がん（例えば胃、大腸、肺、肝、乳房の上皮性腫瘍など）は、罹患率の地域差が大きい傾向が観察されました（図1）。一般がんでは、生活習慣、生殖要因、環境、感染（ヘリコバクターピロリやヒトパピローマウイルス）、がん検診の普及により影響を受けやすいことから、地域による影響が大きくなると

考えられました。一方で、希少がんの罹患率は、中皮腫では大阪と兵庫、カポジ肉腫では東京と沖縄、リンパ系腫瘍では九州地方で高い傾向が見られましたが、その他の多くの希少がんでは地域による差は見られませんでした。このように、住民ベースがん登録の質的・量的精度が向上したことで、希少がんを含めて様々ながんの地域差を見ることが可能になりました。本研究の成果が、これまで着目されていなかったがんについても、罹患率の地域による違いを観察し、そのリスク要因を検討していく一助になれば幸いです。

最後になりましたが、国立がん研究センターおよび都道府県のがん登録業務に関わる全ての皆様、日本がん登録協議会の皆様に感謝申し上げます。

本研究は、厚生労働省科学研究費がん政策研究事業「国際比較可能ながん登録データの精度管理および他の統計を併用したがん政策への効果的活用研究」班の活動です。

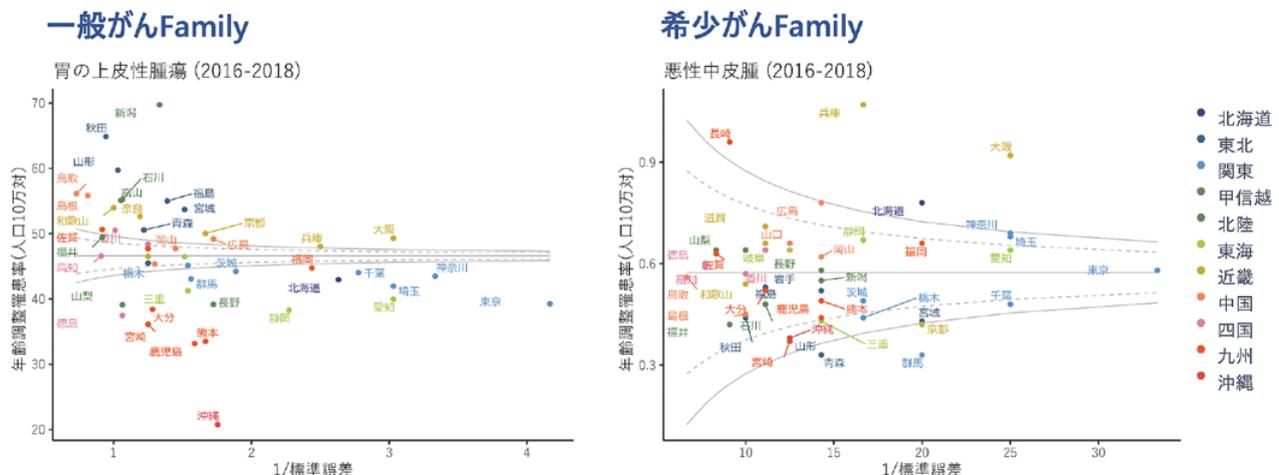


図1. 都道府県別がん年齢調整罹患率 全国がん登録 (2016-2018)

中央線：47都道府県の平均年齢調整罹患率、実線：99.8%信頼限界、破線：95%信頼限界